

講義名	資源論		
科目区分	教養一般		
担当教員	南木 睦彦		
開講期・曜日・時限	後期 月曜日 3時限	授業形態	
履修開始年次	1年生	単位数	2
		備考	

主題と概要

この科目には三つの目標がある。一つ目は現在の資源問題の概要を学び、それを自分自身の言葉で説明できるようになることである。二つ目は、資源論に関わる問題について対立する見解の双方の根拠を検討し、自分なりの判断を下せるようになることである。このため、リサイクルの功罪、クジラ・マグロの資源保全、日本の食糧自給率と自由貿易など、意見・見解・判断の対立があり、ディベートの論題としても好適な問題を取り上げる。三つ目は形式の整ったレポートを作成できるようになることである。このため、1回の授業全てをレポートの書き方の講義にあてる。

到達目標

授業中に学ぶ主要概念を身に付けており、それを用いて資源論の現代的課題について説明できる
資源論に関わる見解の双方を理解したうえで、自分なりの判断を下すことができる
形式の整ったレポートを作成することができる

提出課題

期末にレポートを提出してもらう。毎回の授業終了後、Respon等を用いて、質問に答えたり、感想や質問を書いたりする。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック

毎時間の提出物については次の授業時に講評・解説する。期末レポートの提出期限は授業期間終了後になるので、Portalで講評・解説する予定である。

評価の基準

期末レポート60%、平常点40%。平常点は毎授業時の提出物により評価する。
なお、授業後の提出物を出さない回数が1/3以上の場合は、欠席が1/3以上と同様であるとみなし、期末レポートを提出する権利を失い不合格になる。

履修にあたっての注意・助言他

オンデマンド型のオンライン授業で実施する。

教科書
.使用しない。

プリント資料及び参考文献

Ryuka Portalで資料を配布する

授業計画

- 1 資源とは何か
- 2 コモンスの志願
- 3 エネルギー資源
- 4 金属資源
- 5 リサイクル - 1
- 6 リサイクル - 2
- 7 リサイクル - 3
- 8 レポートの書き方
- 9 水産資源と排他的経済水域 - 1
- 10 水産資源と排他的経済水域 - 2
- 11 水産資源と排他的経済水域 - 3
- 12 捕鯨問題
- 13 食料自給率と自由貿易 - 1
- 14 食料自給率と自由貿易 - 2
- 15 まとめ

授業形態（アクティブ・ラーニング）	
ア：	PBL（課題解決型学習）
イ：	反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：	ディスカッション、ディベート
エ：	グループワーク
オ：	プレゼンテーション
カ：	実習、フィールドワーク

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

講義を聞いてメモを取ったり、ノートを作成したりして、授業内容を整理していただきたい。授業後に内容を整理し、次の授業を視聴する前に前回授業をふり返っておくことが望ましい。
期末レポートは、相当レベルの高いものを要求する。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

備考